

これまでの実績を踏まえ、 心の通い合う国際協力を推進する ——麗澤海外開発協会創立50年を迎えて



一般財団法人麗澤海外開発協会
会長

廣池 幹堂

廣池幹堂（ひろいけ・もとたか）

1950年、初代会長・廣池千太郎の長男として東京に生まれる。1974年、東北大学教育学部を卒業後、ロンドン大学教育研究所に留学。麗澤大学助教授、同ワシントン事務所代表、麗澤大学学長を経て、現在、公益財団法人モラロジー道德教育財団（前・モラロジー研究所）理事長、学校法人廣池学園（麗澤大学、麗澤中学・高等学校、麗澤瑞浪中学・高等学校等）理事長、一般財団法人麗澤海外開発協会会長、一般社団法人日本道経会名誉会長。著書に『世界に誇る日本人——21世紀に伝えたい日本の心』[玲瓏のこころ——歴史に学ぶ叢書]（以上、モラロジー道德教育財団）、『人生の名言・歴史の金言——現代人の心に効く55の言葉』（育鵬社）、『国家と道德——令和新時代の日本へ』（文藝春秋）等、編著に『「三方よし」の人間学——廣池千太郎の教え105選』『「三方よし」の経営学——廣池千太郎の教え99選』（以上、PHP研究所）がある。

麗澤海外開発協会（RODA/Reitaku Overseas Development Association）は、総合人間学モラロジーの創建者・廣池千九郎（法学博士・1866～1938）の遺志に基づき、「開発途上国において文化・経済の発展に協力するため、国際協力活動を通じて、世界の平和、人類の安心と幸福の増進に寄与すること」を目的に、昭和46（1971）年、外務省所管の財団法人として設立されました。以来、半世紀にわたって開発途上国への貢献活動に取り組み、平成25（2013）年4月には内閣府より一般財団法人として認可され、令和3（2021）年に創立50年を迎えました。長年にわたってご支援・ご協力を賜りました多くの方々と、海外での事業活動に誠心誠意ご尽力いただきました方々に心から感謝と敬意を表するものです。

初代会長の廣池千太郎は、当協会の設立にあたり、次のように述べております。

「私どもは、つとに世界人類の安心、平和、幸福を念願して道德科学（モラロジー）を創設し、全世界に向かって精神的改革を呼びかけた学祖廣池千九郎博士の意志にもとづいて、財団法人道德科学研究所（現在のモラロジー道德教育財団）ならびに学校法人廣池学園

を設置し、道德科学を根幹とする社会教育、学校教育を広く展開し、微力ながら今日まで、国家ならびに世界の平和をめざして努力してまいりました。

しかし今日、深刻な政治的・経済的諸問題と取り組む開発途上国の姿を見ると、今やそれらの諸国に対して愛の手を差し伸べることは、幸福と繁栄を享受しているわが国日本の果たすべき当然の義務というべきでありましょう」

最初の事業は、当協会設立の契機ともなったラオス王国における養蚕開発事業でした。麗澤大学中国語学科教授・故奥平定世教授（協会設立時の常務理事）による調査・指導によって、昭和39（1964）年にビエンチャン近郊にレイタク・カンバイ農場が設立されました。その後、廣池学園から指導者が派遣されて農場開拓にあたり、野菜の栽培や鯉などの養殖、養蚕事業に着手しました。当協会の設立後には麗澤の卒業生が派遣され、本格的に養蚕開発事業が行われました。事業は拡大されて大きな成果をあげましたが、昭和51（1976）年に、同国の政変により事業中止のやむなきに至りました。

次の事業は、中米のコスタリカ共和国における花卉園芸植物の栽培事業でした。昭和53（1978）年、当時の国際協力事業団（JICA）からの融資の承認を得て、現地法人レイタク・コスタリカ株式会社を設立して開始しました。現地法人の社長には長谷虎治氏（当時・長谷虎紡績株式会社社長）、役員には三重県の植物園経営者・赤塚充良氏や米国カリフォルニア州サリナス市在住の農場経営者・内田善一郎氏等に就任していただきました。

当初はカーネーションのウィルス・フリー（無菌）苗栽培に取り組み、その生産技術を確立しましたが、その量産体制と輸出は断念せざるを得ない状況となり、観葉植物の栽培と輸出事業へと転換いたしました。特にドラセナ（幸福の木）の日本への輸出事業は大成功となり、コスタリカの植物栽培技術の向上と輸出産業の育成に多大なる貢献をしました。

平成3（1991）年、当協会はコスタリカにおける使命は達成できたと判断し、農場

用地と施設をコスタリカの公的機関に寄贈して同国における事業を閉鎖しました。この経験から、「開発途上国の人材育成、技術指導を行う」という協会設立の目的を再確認し、平成4(1992)年に事業計画検討委員会を設置して、タイ、ラオス、ネパールにおける調査を行いました。その結果、平成5(1993)年から、ネパール王国で進められていた鍼灸とマッサージの技術者の養成学校「東洋医学専門学校」を支援しました。同校は、畑美奈栄氏の献身的な活動によって設立され、今日ではネパール人による自主独立を果たし、数多くの卒業生を送り出しています。また、畑氏の活動を支え、鍼灸師育成の支援ともぐさ製造技術の指導に取り組んでいるNGO「ティテパティよもぎの会」に対して人的・資金的な支援を行い、ネパールにおける無料巡回治療(ヘルスキャンプ)等への支援も進めてきました。併せて、平成16(2004)年には「ティテパティよもぎの会」のクリニック兼もぐさ工場建設への支援も行いました。

さらに、平成14(2002)年からは、タイ北部チェンライ県で生活が困窮している少数民族の子供たちの生活・教育支援施設を運営しているメーコック財団(旧メーコック・ファーム)への支援と助成を行い、平成15(2003)年には、当協会の理事・副会長として貢献されていたラオス出身の竹原茂氏(麗澤大学名誉教授/旧名:ウドム・ラタナヴォン)の名を冠した「竹原基金」を創設しました。現在、この基金によって、貧困等の理由で学校へ通えないアジアの多くの子供たちへの教育支援を進め、留学生の招聘事業にも役立てられています。

平成20(2008)年4月には、それまで28年間にわたって国際救援活動に取り組んできたMIRC(モラロジー国際救援運動推進委員会)の事業を統合し、国際協力活動のいっそうの活性化に努めるとともに、MIRCが校舎を建設したカンボジアでの小学校(2校)への支援も引き続き進めております。

また、「アジアの子供たちへの教育支援」を目的に、これまでにチャリティーコンサートを3回開催しました。第1回は平成20(2008)年9月に千葉県市川市の行徳文化ホールで、第2回(2011年12月)と第3回(2014年12月)は、いずれも東京都の千代田区立内幸町ホールにおいて開催しました。各回とも多くの方々にご参加いただき、当協会の国際協力活動について深くご理解いただくとともに、多くのご支援をいただ

きました。本公演の収益金は、タイ、ラオス、カンボジア等、アジアの子供たちへの教育支援に活用させていただきました。

現在は、引き続いてタイ北部の少数民族の子供たちへの教育支援、ラオスやカンボジアにおける学校建設等への支援、ネパールにおける医療支援、海外での自然災害に対する緊急支援等を行っています。また、アジアの子供たちへの教育支援の一環として、平成26(2014)年度からはアジアからの留学生招聘事業も行い、これまでにラオス、ネパールから招聘した6人の留学生が麗澤大学で学びました。

さらに、わが国の青少年の育成に資するべく、長年にわたってタイ、ラオス等へのスタディツアーを定期的に実施しています。これらのツアーに参加した学生・生徒・青年は、訪問国の人たちとの交流や現地での生活体験を通して国際協力についての理解を深め、国際貢献の場で活躍するための知識と心を大きく育んでいます。

このように、ささやかではありますが、「世界の平和、人類の安心と幸福の増進」に寄与するために、これまでの経験と実績を踏まえて若い世代の育成にも貢献し、心の通い合う国際協力をいっそう推進していきたいと念願しております。

今日、先進各国と開発途上国との経済格差はますます広がってきております。麗澤海外開発協会の50年史の刊行を機に、あらためて当協会の使命を確認し、さらなる発展に向けて努力してまいります。今後とも、関係各位ならびにご支援を賜りました皆様によりいっそうのご指導とご鞭撻をお願い申し上げ、刊行の言葉といたします。

